

平成 19 年度のモニタリングの計画について

19. 9. 12 北海道環境生活部

北海道（水産林務部）所管分の河川工作物に係る標記モニタリング調査を、次のとおり実施している。

1 対象河川工作物

- (1) ルシャ川（平成 18 年度施工済み）：改良後の状況調査
- (2) サシルイ川（平成 19 年度施工予定）：改良前の状況調査

2 調査項目及び調査方法**(1) 遡上率把握**

改良した河川工作物の上・下流での親魚数の数を把握し、改良した河川工作物を親魚が遡上する割合を算出する。

(2) 産卵状況把握

改良した河川工作物の上・下流での産卵床の数を把握する。

(3) 河床変化把握**①縦断測量**

縦断測量を工作物の上下流において実施することとし、河川中心測点を設定する。測点は、上下流においてそれぞれ工作物から 20m ピッチで 4 点取り、5 点目を 40m ピッチで取り終点とする。

また、各ピッチ間で河床に大きな変化がある場合は測点（補助点）を取る。なお、上下流に他の河川工作物がある場合は、その河川工作物までとする。

②横断測量

縦断測量の河川中心測点から横断測量を実施する。

③流速

横断測量の測点ごとに調査する。

④河床の礫構成

横断測量の各ライン上で 0.5m ピッチの点に存在する礫の大きさ（長径、短径）を計測する。

⑤定点写真撮影

河川状況の変化を把握するために、河川工作物の前後に定点（杭を設置）を設け、撮影の方向を定めて撮影する。

(4) その他（遡上成功率の把握：今年度、試行的に実施）

改良した河川工作物の直下の淵で、河川工作物提体から下流 2 m の範囲内水面上に頭部を出した個体を「遡上を試みた個体」とみなして数え、水面上に頭部を出し、そのままダムの提体を超えて上流に上がりきった個体を「遡上に成功した個体」として数えることにより、遡上成功率を算出する。

3 その他

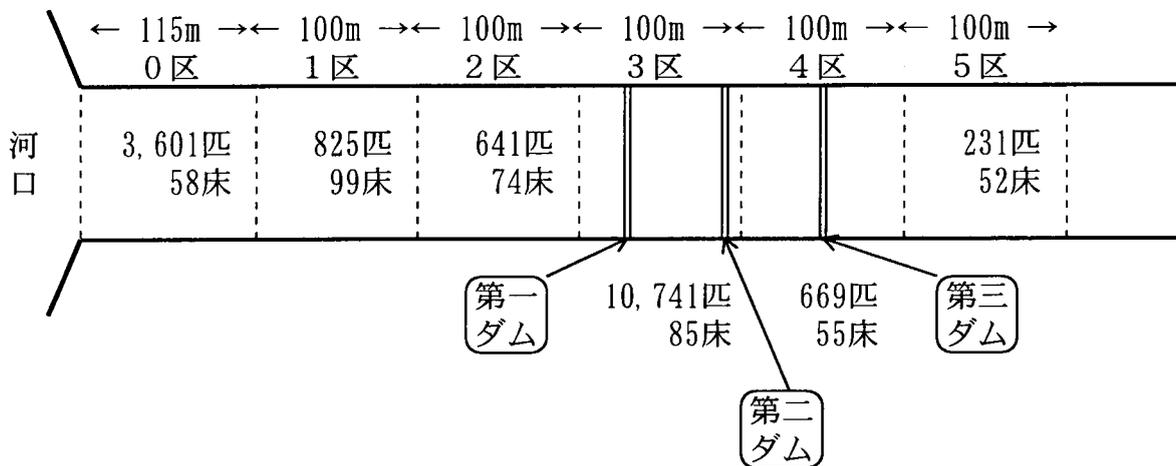
平成18年度に行ったサケ科魚類遡上状況調査（世界自然遺産地域内の27河川）において、ルシャ川の改良前のモニタリング調査を行った。
その結果は以下のとおり。

(1) ルシャ川における推定資源量（H18.9.22～11.17の間で5日間）
(匹)

カラフトマス 推定遡上数	シロザケ 推定遡上数	オシロコマ 推定生息数	サラマス・ヤマメ 推定生息数
48,314	2,931	9,621	271

(2) 河川工作物改良前の状況

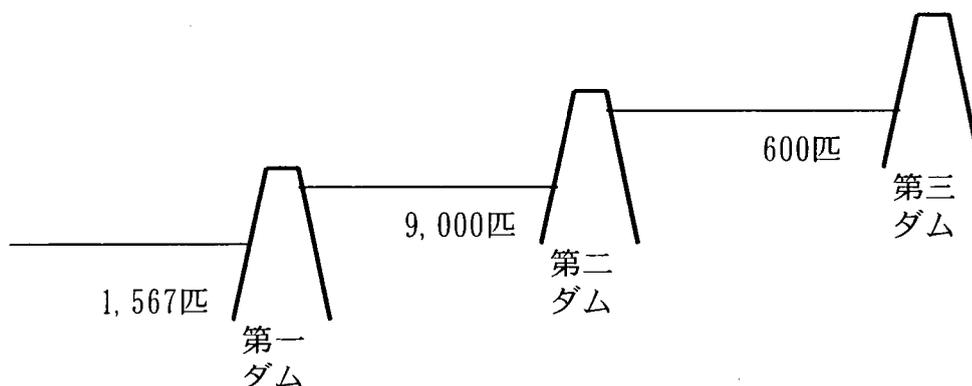
①河川内のカラフトマス親魚数（上段）と産卵床数（下段）（H18.9.22調査）



※調査区間の設定

河口部から上流に向けて1番目の淵までを0区とし、その後、上流に向けて100m毎に区間を区切り、5区まで調査を実施

②各ダムの淵にいたカラフトマスの推定数（H18.9.22～23調査）



※参考（H19調査の速報 調査日：H19.9.5）

第一ダムの淵	第二ダムの淵	第三ダムの淵
150匹	430匹	800匹